

“今どき”の大学生が伝える 日本の美しさ、力強さ、素晴らしさ

われら関大伝統派 和のこころを継承します

～能楽、邦楽、茶道、書道に引き寄せられた学生たちが語る伝統文化の心～

関西大学には、80年以上の歴史を持つ能楽部をはじめ、邦楽部、茶道部、書道部など、大学が公認している文化会の課外活動クラブがあります。

これらの部には、現在104人の男女学生が所属しており、伝統芸能、伝統文化の奥深さに魅せられ、その心を修めようと練習や稽古に励んでいます。

「おとなしい」「無関心」といった今どきの大学生像が広がるなか、関西大学の“伝統派”たちは、日々技と感性を磨き、本格的な舞台や展示会などを積極的に行って“和のこころ”を継承していく心構えです。その4つのクラブの代表者に、伝統芸能、伝統文化の魅力や思い入れについて聞いてみました。

1. 歴史がテーマの和風ミュージカルとして観てほしい

【能楽部】法学部3年次生 谷本 正満

能楽部は、1923年に創立され、82年の歴史を持っています。

人を介して受け継がれる伝統芸能と同じように、練習は、1年次生や2年次生に舞や謡まい うたいから舞囃子まいばやしを指導していくことで、先輩から後輩へ伝えられています。

歴史の出来事を題材にした曲目を演ずるときは、人物を表現するために、ゆかりの地を訪れたり、書物を読むことで情感を感じるようになります。

能楽というと静かで優雅なイメージがあるかと思いますが、実際の舞台では力強さと臨場感に溢れており、約1時間の舞台が終わると、謡手はへとへとになるほどです。また、古くさいイメージを持っている人も、歴史がテーマの和風ミュージカルとして観てもらうと、身近に感じてもらえると思います。

演じる上で一番難しいことは、型を覚えることではなく、その曲の情感を表現することです。本年の関大能では、能楽「岩舟」を披露させていただく予定ですが、曲目ゆかりの地である住吉大社を訪ね、舞台の成功を祈願してきました。「岩舟」ではシテ（主役）である龍神の力強い舞にご注目ください。



能楽部の主な概要

創 立 1923 (大正12)年

部 員 数 9人(男子:1人 女子:8人)

主な活動 春の善竹忠門会(4月) 関西学生能楽連盟春季大会(6月) 秋の善竹忠門会(10月) 関大能(12月)

今後の活動 12月11日(日)には、第37回目となる「関大能」を山本能楽堂で行います。

今回の曲目は『岩舟』。とある時代、住吉に龍神が訪れて宝物を授けるというお話です。

2. 和楽器の音色で日本の風景や人情を伝えたい 【邦楽部】社会学部3年次生 神野 学

私は母親の実家が三味線屋ですが、三味線を本格的に始めたのは邦楽部に入ってからです。

三味線がギターと違うのは、型を重んじることです。演奏で自分の個性を出していくためにも、^{だんぎ}段切れや^{ばち}流し撥といった型を覚えることから始まり、そして、^{あいかた}合方の雄大さ・口説きの“粋”な感覚を身で覚え、その先に曲の持つ世界観を自分が思う音楽で描くという過程を踏むこととなります。



こうした歴史の中で伝えられてきた邦楽には、想像を超えた概念があり、伝統芸能の奥深さとともに、音楽としての意外性に驚かされます。

邦楽の素晴らしさは、曲に物語が広がっていることです。川のさざなみを尺八や琴の音色で表現するなど、日本人の心を動かした風景や日本特有の人情が唄われています。

最も力が入る活動である10月の定期演奏会「邦楽の夕^{ゆうべ}」(吹田メイシアター)は、今年で第46回となる単独演奏会でした。今回は、長唄『越後獅子』や^{そら}箏曲『千鳥の曲』など、全10曲を演奏しました。

邦楽の人間味あふれる独特の世界観と表現の豊かさに、舞台と客席との間に一本の糸が張り詰めるような緊張感と一体感が生まれ、今年も言葉では言い表せない至極の時間を与えてくれました。

邦楽部の主な概要

創 立 1947 (昭和22)年(「尺八部」として創立)

部 員 数 23人(男子:5人 女子:18人)

主な活動 文化フェスティバル(単独公演・和のコラボレーション)(4月) 関西学生邦楽連盟・連盟祭、夏合宿(8月) 定期演奏会「邦楽の夕」(10月)ほか

3. 茶の心「和敬清寂」でもてなしの心を

【茶道部】経済学部3年次生 桑木野良平

日々の練習は、建築家の村野藤吾氏が設計し、裏千家今日庵をイメージして千里山キャンパスに建てられた茶室で行っています。

茶道は、作法やお点前^{てまへ}の習得を通じて、心を無にする精神修行とされています。また、茶道には「和敬清寂^{わけいせいじやく}」という言葉があり、心が無になれば、すべてのものから心が解き放たれ、あらゆることを素直に受け入れることができる。その行き着く先が茶道の心であり、おもてなしの心だと思えます。



茶道を始めてから、ひとつの出会いを大切に、相手の気持ちを汲み取ろうと心がけるようになりました。

関西大学茶道部の特徴として、対外茶会の際に趣向をこらして副席を催します。副席のテーマを各茶会ごとに設定し、その意図を汲んだ場面を再現します。これは57年続いた我が部の伝統で、関大茶道部といえば趣向といわれる程に諸先輩方はこのよき伝統を守り抜き、現在にまで受け継がれています。

今年の秋季茶会の副席では、テーマを『たより』として、新古今和歌集の藤原家隆の歌をモチーフに席作りをしました。

茶道部の主な概要

創 立 1948(昭和23)年

部 員 数 43人(男子:15人 女子:28人)

主な活動 学内「千里庵」にて週2回茶会形式の全体練習、他はお点前の個人練習。
行事として、大阪城内豊国神社にて対外茶会、学内「千里庵」にて茶事、新入生歓迎茶会、学園祭中の学内茶会など。

今後の活動 来年1月6日には吹田メイシアター茶室にて初釜を催します。1年次生が主催する初めてのお茶会です。

書道部の練習は、先輩が後輩に教えながら、年2回の書展に各部員が納得のいく作品を出展することを目標にしています。

私が書道を始めたきっかけは、字を綺麗に書けるようにと書道教室に通ったことです。練習を重ねるうちに、書く字が難しくなるほど書きたい意欲がわくようになりました。

大学に入ってから初めて足を運んだ書展で、明・清時代の書家「王鐸」の作品の臨書に出会いました。それから王鐸の作品を好んで書くようになりました。

無心に作品を書くうちに、書家の作品をお手本にする臨書では、書家の書いた字をただコピーするのではなく、作品をつくりあげた書家の気持ちを再現することだと感じるようになりました。



書道部の主な概要

創 立 1953(昭和28)年4月

部 員 数 29人(男子:15人 女子:14人)

主な活動 2回生展(5月) 前期書道展(6~7月)
夏合宿(9月) 後期書道展(12月)

今後の活動 12月23日(金・祝)~25日(日)に吹田メイシアター展示室にて「第82回書展」を開催します。私の作品である王鐸のほか、空海や虞世南、呉昌碩などの臨書や各部員の創作を出展します。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 川瀬 北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6337-7078

<http://www.kansai-u.ac.jp>